



▲平成29年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞した町消防団

熊本地震などでの地域への貢献を表彰

町消防団が平成29年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞

●震災などでの団員の献身的な活動功績を表彰

9月8日(金)東京都の首相官邸で、平成29年防災功労者内閣総理大臣表彰が行われ、町消防団(松尾憲親団長483人)が同表彰を受賞しました。

同団は、平成28年4月の熊本地震に際し4月14日(木)から5月31日(火)までの間で述べ4,615人が出勤し、被害状況の把握や被災者の避難誘導、避難所の運営支援(支援物資の運搬、配布や炊き出しなど)に精力的にあたりました。町災害対策本部と連絡を密にし、インフラが復旧されるまでの約2週間にわたり、がれきの撤去や交通誘導などを行い、いち早く復旧に努めました。

発災後から5月末まで、日中深夜を問わず警戒巡視に努め、地震に伴う窃盗などに対する防犯活動にも従事しました。また、6月20日(月)から21日(火)未明にかけて梅雨前線に伴う豪雨災害が発生し

た際には、本町では1時間当たり150ミを記録(全国観測地点で歴代4位)し、地震により地盤が緩んだ状態で起こった豪雨災害によって、河川の氾らんや浸水被害、道路の寸断が相次ぎ、斜面崩壊により孤立する集落もありましたが、避難誘導などやその後の道路や民家に堆積した土砂の撤去で多くの団員がその職務を遂行しました。

今回の表彰では、いずれの災害に際しても団員は被災者となる中で、消防の崇高な精神の下、奉仕した活動功績はたいへん大きく地域住民の生命または身体の保護に多大な貢献をしたことが評価され、受賞となりました。

松尾団長は「今回の表彰は、町消防団はもとより、本町全体が大きな災害に負けなかったことが認められての受賞と考えています。今回の受賞が、今後の復興につながればと思います。今後、団が一丸となって消防活動に取り組むので、皆様のご協力をお願いしたい」と述べました。